



株式会社千住工房オリジナルショートムービーいよゝ完成!

いよゝ千住工房のオリジナルショートムービーが完成しました。(BGMがまだ出来ていません!)一年に一つ製作するこのプロジェクトの第一弾です。様々なアニメーション、ゲーム、CM等に関わってきた当社ですが、著作権の関係で「当社がやりました!」と声を大きくして発表できる作品はごく一部でした。このムービーは完全に当社による制作なので「全部ウチでやりました」と言えるモノになりました。すでにユーザーにアップしてありますので、「千住工房」で検索して是非ご覧ください。

ショートムービー完成

東京足立

千住工房通信

株式会社千住工房
東京都足立区南花畑 3-35-1
グリーンパーク花畑 VI-507
電話 (03) 3859-2720

お問い合わせは
info@senjukobo.co.jp
www.senjukobo.co.jp

www.facebook.com/senjukobo.co.jp

@senjukobo

制作スタッフ

Produced & Directed Ayumi Sugimoto	Ayumi Sugimoto Interpreter & Language Coordinator
Lead Background Artist & Concept Designer Takeshi Fujino	Taro Brommer Special Thanks
Additional Background Artists Shin Watanabe Tomohiro Nakau	Masayo Kobayashi Haruka Abe Akitoshi Sugimoto
Video Editing & Special Effects Jared Matsushige	
Production Supervisor	

SENJU KOBO GALLERY



▲『クジラが守る街』
絵・杉本 明聡

今回も前回に続きファンタジーなものを描きました。前々から海底の様な雰囲気のもの描きたかったのですが、上手く描けなくてモヤモヤしていましたが今回やっと描くことができました。今後もアイデアが出て来ればファンタジー系を描きたいと思います(汗)

▼『メロンパン』
絵・藤野 健

子供の頃外側のカリカリした部分だけちぎって食べてたら親に行儀が悪いと怒られました。今思うとカリカリ部分をクッキーだと思って食べてたような気がします。



〜鶏もも肉のソース焼き〜 Liquor and Snack

- 肉を一口大に切って塩、胡椒をする。
- 小麦粉を入れたビニール袋に肉を入れてふってまぶす。
- フライパンにオリーブオイルを引き、肉の両面に軽く焦げ目がつくまで焼いたら、白ワインを入れて蓋をして蒸し焼きにする。
- 肉に火が通ったら、ウスターソースを絡める。

材料
鶏もも肉
白ワイン
ウスターソース
塩、胡椒
オリーブオイル
小麦粉



揚げ物をするのが苦手なので…(特に夏場はやりたくない; ;)
唐揚げの代用の手抜き料理って感じです。

文と絵・小林 雅代



にわか映画談義

文とイラスト・渡辺 紳

今回は、「今頃か!」シリーズです。あれほど流行った名作を今頃になって、初めて見るシリーズです。恥じらいもなく進めてまいります。そんな訳で今回見たのは「ターミネーター2」です。僕はアクション映画がどうも苦手な子どもの頃に見たアクション映画としては、「ロッキー」とジャッキーチェンくらいでした。アクション映画は、物事の流れや色々な知識を持ってないと辛い思いで見なくちゃいけないと思っていたので大体途中で挫折してました。このターミネーター2は最初1時間くらい見てハラハラしてきたのですが、どっちが悪いのかよくわからなくてもう一度最初から見直しました。しかし、さすが面白い!最後まで気を抜けませんでした。今から24年前なのに、このCGのクオリティの高さには圧倒されました。あそこまで残酷な横暴を繰り返しながらも、

嫌悪感がないのは血の描写がないからなのでしょう。とにかく敵の T_1000 の不気味さとしつこさは最後まで恐ろしかったですね。登場時のさわやかさは何だったんだろう。という訳で、これを機にアクション物にもまた挫折しながら挑戦していきたいと思います。



床の上のゴル



第12回
絵だけでなく
本も出版した
多彩な浮世絵師
十返舎一九

十返舎一九について
十返舎一九とは江戸時代後期の浮世絵師であり、同時に作家(戯作者)でもあります。むしろ十返舎一九の場合作家としての方が有名でしょう。特に代表作の「東海道中膝栗毛」は多くの人が名前を耳にしたことがあるだろうと思います。

十返舎一九の魅力
十返舎一九は浮世絵としては本の挿絵を描いていたのが主流で特に役者絵、美人画等決まった分野は描いていませんでしたが、「東海道中膝栗毛」が大ヒットし、こちらかという浮世絵師としての世間的な認識は低いかと思われまます。ただ、その「東海道中膝栗毛」には自身が描いたたくさんの浮世絵が挿絵となっていて、また狂言、謡曲、歌舞伎に落語、川柳などに詳しく、狂歌を寛永期に修業し、それらを作品の素材にもしていました。もちろん「東海道中膝栗毛」にも登場人物が狂歌・洒落・冗談をかかし合うシーンがあります。

私は十返舎一九の自分の得意な事柄を取り入れ合わせながら一つの作品をつくるというところが多彩だと思いました。さらにそれが一つのものに偏らず、うまくまとめられているのがまたすごいと思います。

文と絵・阿部 逸

